

評価調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：ブラジル	案件名：消化器病診断技術
分野：保健・医療	援助形態：第三国集団研修
所轄部署：中南米部南米課	協力金額：0.34億円
協力期間	1998年度～2002年度 先方関係機関：サンパウロ州立カンピーナス大学 消化器病診断・研究センター 日本側協力機関：
他の関連協力：プロジェクト方式技術協力「カンピーナス大学消化器病診断・研究センタープロジェクト」、フォローアップ協力	
<p><b>1-1 協力の背景</b></p> <p>我が国はブラジル政府の要請に基づき、同国で急増し問題となっていた食道静脈瘤疾患等の出血性消化器疾患の原因究明と診断・治療法の確立を目的とした、プロジェクト方式技術協力「カンピーナス大学消化器病診断・研究センタープロジェクト」を1990～96年度に渡って実施した。その後1年間のフォローアップ協力を経て消化器内科・消化器外科・肝臓疾患における診断技術の向上とX線・超音波・内視鏡診断技術の向上が見られ、技術移転の成果を収めた。</p> <p>一方、ブラジル周辺のラテンアメリカ諸国においては、近年消化器病が増加傾向にあるにもかかわらず、依然として消化器病の診断技術が遅れていることを踏まえ、我が国はブラジル政府の要請の下、ラテンアメリカ諸国およびポルトガル語圏アフリカ諸国を対象とする第三国集団研修を実施した。</p> <p><b>1-2 協力内容</b></p> <p>ラテンアメリカ諸国およびポルトガル語圏アフリカ諸国に対して消化器病に関する第三国集団研修を実施し、消化器病診断および治療技術に関する技術移転を行う。</p> <p>(1) 上位目標 ラテンアメリカ諸国およびポルトガル語圏アフリカ諸国における消化器病診断および治療技術レベルが向上する。</p> <p>(2) プロジェクト目標 研修参加者は消化器病診断および治療に関する知識および技術を習得し、同参加者の所属機関の治療技術レベルが向上する。</p> <p>(3) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研修参加者は、消化器病診断に関わる内視鏡検査法の原理と技術を学ぶ。</li> <li>2) 研修参加者は、超音波内視鏡を活用した胆嚢・膵臓疾患の内視鏡診断法と治療技術を習得する。</li> <li>3) 研修参加者は、X線・CTを併用した超音波診断技術を習得する。</li> <li>4) 研修参加者は、消化器病に関して肉眼や顕微鏡を用いた検査技術を習得する。</li> <li>5) 研修参加者は、ヘリコバクター・ピロリ菌やHIVなどの感染症・消化器病疾患に関わる細菌学・菌類学について学ぶ。</li> <li>6) 研修参加者は、肝臓病治療について学ぶ。</li> </ol> <p>(4) 投入 日本側： 短期専門家派遣 5名 研修経費 0.34億円 相手国側（ブラジル）： 研修講師・スタッフ 5名 施設提供 ローカルコスト負担 約0.14億円</p> <p>(5) 参加国 コスタリカ、エルサルバドル、ニカラグア、パナマ、アルゼンチン、ボリビア、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ、アンゴラ、カーボヴェルデ、ギニアビサウ、モザンビーク、サントメ・プリンシペ、ブラジル</p>	
<b>2. 評価調査団の概要</b>	
調査者	Dr. Filadelfio Euclides Venco, Albert Einstein Israeli Hospital Dr. Roberto El Ibrahim, Albert Einstein Israeli Hospital Dr. Humberto Setsuo Kishi, Albert Einstein Israeli Hospital Dr. Marcos Takeo Obara, Albert Einstein Israeli Hospital Dr. Leonardo de Abreu Testagrossa, Albert Einstein Israeli Hospital
調査期間	2003年2月～3月 評価種類：在外終了時評価
<b>3. 評価結果の概要</b>	
<b>3-1 評価結果の要約</b>	
<p>(1) 妥当性 研修参加国においては、消化器系疾患の広がり公衆衛生上の深刻な問題となっている。特に、癌の早期発見および治療、胃炎、食道・大腸機能障害、ウイルス性肝炎およびそれらの合併症への対策が重要な課題である。アンケート結果によると、研修参加者の約80%が、本研修のカリキュラムは有益であり、期待に応える内容であったと回答している。また、消化器病に関する治療技術の向上を目指す派遣機関のニーズに合致しており、妥当性は高いと言える。</p> <p>(2) 有効性 研修参加者に対するアンケートでは、85%が研修内容を十分理解することができたと回答しており、カリキュラムや教材・機材に関しても良い評価を得た。また、同アンケート結果から研修参加者の中には離職者がおらず、多くの研修参加者が仕事</p>	

の質を向上させることができたうえ、その大部分が同僚への技術移転を行っていることも判明しており、本研修の実施により研修参加者の所属機関の技術レベルが向上していることが伺える。

#### (3) 効率性

研修指導者に関しては、研修参加者の約95%が指導者の能力を高く評価している。同様にカリキュラムについても高い評価を得たが、超音波検査における実習や専門的な訓練をもっと実施してほしいという意見があった。また機材は適切であったが、教材に関してはより専門的な教科書や参考書を望む意見があった。いくつかの改善点はあるものの、全般的に研修内容や資源の投入は適切であった。

#### (4) インパクト

アンケート結果によると、研修参加者の約65%が、研修で得た知識は日常業務上有益であり、約68%が、仕事の質を向上させることができたと回答している。また、研修参加者のほぼ全員が、報告会やセミナーを実施したり、教材を配布したりするなど、日常業務において同僚への知識の普及に努めていると答えた。

#### (5) 自立発展性

アンケート結果によると、約90%の研修参加者は他の研修参加者と連絡を取り合っており、知識の普及に努めていることがわかった。しかしながら、研修参加者の約75%が、機材や資金の不足を理由に、「日常業務上、研修で習得した技術を活用することが困難である」と回答している。機材や教材、海外からの専門家、大学院コースを求める意見があり、自立発展性を高めるためには支援が必要である。

### 3-2 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

該当なし

#### (2) 実施プロセスに関すること

- 1) プロジェクト方式技術協力の実施により、研修実施機関の指導技術や設備が整っていたため、本研修では効果的な技術移転を行うことができた。
- 2) 研修参加国の文化・言語の類似性により、確実なコミュニケーションが可能であったため、技術移転を効率的に行うことができた。

### 3-3 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

該当なし

#### (2) 実施プロセスに関すること

実習時間および専門的な教科書や参考書が不足していたため、研修参加者の多様なニーズに対応することができなかった。

### 3-4 結論

本研修は、教材や実習の充実などを見直す必要があるものの、全般的に、研修参加者の消化器病診断・治療技術の向上への貢献を果たすことができ、所期の目標は十分達成されたと言える。

### 3-5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

- (1) 実習や専門的な教材の充実を望む意見があり、研修参加者の知識レベルを十分考慮して、教材やカリキュラム・活動内容を改善する必要がある。
- (2) 実習を充実させる必要があるが、内視鏡検査や超音波検査に必要な機材が不足しているため、JICAは機材供与という形で支援を実施するべきである。
- (3) キンピーナス大学消化器病診断・研究センターは、肝炎・AIDSに関するウイルス学の分野で研修を継続する計画をしているため、ブラジル政府およびJICAはこのプロジェクトを支援するべきである。

### 3-6 教訓（他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

- (1) 文化・言語上の類似性は、技術移転を効率的に行う上で非常に重要であるため、研修参加国を選択する際に考慮する必要がある。
- (2) 研修を効率的に実施するために、研修参加者のレベルを選抜の段階で均質なものとし、十分に考慮してカリキュラムや実習を計画するべきである。

### 3-7 フォローアップ状況

該当なし